



第19号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【春の風が桜前線を運んで津軽海峡を渡る…】

桜は春を代表する日本の花ですが、テレビの開花情報では日本列島で一番先に開花宣言したのが東京都となっております。

連日、テレビのニュースなどで東京の花見の名所が映し出されております。

よく本州の方々が北海道に来てビックリする一つに、北海道の春は花が一気に咲くと驚くことがあります。

本来は、季節ごとにより、二月、三月と、梅、桃、桜と咲いていきますが、北海道ではこれらが同時に咲いている光景を見ることができません。

役場前の高遠小彼岸桜も目を追うごとに蕾を膨らましており、淡いピンク色の花びらを満開に咲かせるのも近い気がいたしますが、町民の皆様のところへ広報が届くころには見事な花を咲かせていることと思います。

四月六日(木)に小・中学校で入学式が行われ

ました。

ピカピカの一年生は、自分の背中より大きなカラフルなランドセルを背に、少し緊張しながらも元気に登校しております。

少子化の中で年々子供の数が少なくなっておりますが、今年の新入生の状況は、福島小学校が十一名、吉岡小学校が四名、福島中学校が二十六名となっております。

また、十日(月)には福島商業高等学校でも入学式があり、二十三名の方が新たに入学しております、今年は地域キャンパス校の再編基準の人数要件である二十名をクリアすることができました。

来年度以降も引き続き高校存続に向けた取り組みを強化してまいりたいと考えております。

四月十日(月)に札幌市のHBC本社において、今日ドッキリなどのテレビやラジオのリポーターとして活躍されてい

る小橋亜樹さんに「するめ大使」を任命いたしました。

小橋さんは、福島町のスルメの大ファンでラジオなどでもスルメの美味しさなどを情報発信してくれております。

これからは「福島町するめ大使」として、日本の福島町の美味しいスルメを全道へ伝えていただくこととしております。

また、するめ大使として町内のイベントへの参加もお願いする予定となっておりますので、町民の皆様もよろしくお願いいたします。

永い間、福島町の医療を支えいただきました深浦内科医院が四月二十日(木)で閉院いたしました。

深浦先生は、輪島先生の後任として昭和五十八年に九州の熊本県から来て、約三十四年間の長きにわたり、町民の健康を見守っていただきました。改めて、深浦先生の地

域医療に対する貢献に、町民を代表して感謝を申し上げます。なお、先生は閉院後も福島町に住み続けていただけると伺っておりますので、健康に留意していただきたいと存じます。

古来の教えに、「道をつくった人は、道をつくらうと思つた人であり、その思いを強く熱く反復した人である。行つたり来たりする中で道はでき、一回通つただけでは道はできない、このことはこれまでの歴史が教えている。」とあります。

福島町も平成二十九年、先人たちがつないだ道の先に、新たな道をつくることとなります。

今年も一年、町民の皆様の声に謙虚に耳を傾け、新たな道を皆様と共に歩んで行きたいと思っておりますので、ご理解ください。